

3 研修の課題

○今回の授業参観と実践、及びその後のミーティングを通して、就学前の子どもが卒園後、スムーズに学校生活に移行できるように園でどんな生活体験が必要であるか、またそのための保育者の援助のあり方について改めて考えさせられた。

実践後のミーティングで、1年生担任の先生から、就学時に最低これだけはできてほしいこととして以下の内容が提示された。

- ① 話を聞く姿勢
- ② 授業中に座っていることができる
- ③ 身の回りのことができる
- ④ 自分の名前程度の字が書ける

現在の年長児の実態と照らし合わせてみると、④についてはだいたい子どもが字への関心を持っており、卒園する頃にはなんとか字を書いているという姿が見られる。この時、保育者の働きかけとして、個別の興味関心の高まりに応じて対応している。課題なのは①②③である。③の身の回りのことを一通りできるものの、他のことに関心をとられそのことに気持ちがむかぬという姿が見られる子どもがいる。①の話を聞く姿勢も同様である。②の着席行動については、遊び中心の保育内容であり、学校の授業形態ではないため、園生活での完璧な習得は、なかなかむずかしいのではないかと考えられる。

「組織的明示的な指導によって学習活動を推進する場所」である学校と違い「幼児らしい活動のなかで、暗黙のうちに出現してくる次の時期へ伸びようとする力を育てる場所」が保育施設であるということから考えると、「〇〇ができる」という姿がゴールではなく、「意欲の芽生え」をその子どもの中に育むということが私たち保育者の大きな課題となると思われる。

幼児一人一人の発達過程を把握しつつ、保育者間で連携を取りあい、以下のことを子どもが主体的に身につけていくということについて、保育者の援助のあり方を今後もさらに探っていききたいと思う。

①協同性の育成・・共通の目的の実現に向かって、互いに協力しあい、分担しあうことによって完成するという達成感を得、協力するとはどういうことを子ども自身が体験的に学ぶ。

②規範意識の芽生え・・ルールを知り、ルールを守ることによって友だちと楽しくかかわれることを体験し、同時に自分の気持ちを調整する力を身につけていく。

○小学校との連携のあり方

卒園児の大きな成長が印象的であったが、11月の姿であったので、できれば入学時（4、5月）の子どもの生活の様子を保育者が観る事で、卒園児がどのようなことでとまどっているかなどについて把握できるのではないかと感じた。毎年、就学前の2月末に就学予定の子どもについての申し送りを行うが、できれば新学期がはじまってすぐに、実際に担任しておられる先生との連絡会があると、家庭の様子や本児の状況、特に配慮が必要な事柄などの申し送りや情報交換による子ども理解が図られ、園生活から小学校生活への移行がスムーズに進められるのではないかとと思う。

また、就学前の子どもたちの生活の様子などを学校の先生方に理解してもらうことも重要であると思われる。具体的な方法としては、年間を通した子ども間交流の中で一緒に引率される先生方に園生活や子どもの姿（できれば季節ごとなど数回の交流がのぞましいと感じる）をみていただくこと、またこちらが学校を訪問する際、保育者が卒園児の姿や先生方の授業の様子をみるという相互観察の機会を意識的に作っていくことなどが考えられるのではないかとと思う。子どもの側からみても、園生活の段階から、小学校と交流を行うことで、不安が解消されるというメリットがあると思われる。

(資料 8-1) 「連携理解推進事業計画書」

研修者	●●●●	所属園	認定こども園C園	連絡先	
ねらい	小学校生活を送る一年生の姿とその発達過程の実際を知り、就学前の子どもたちにふさわしい活動や体験の在り方を探る。				
研修先	●●●市立 ●●小学校			所在地	
担当者名	●●●● 教諭・●●●● 教諭			所属クラス	1年
月日(曜)	研修時間	内 容			
研 修 1	一日目 6/23 (火)	15:30 ～ 16:45	幼保小合同研修会(担当者間打ち合わせ) ☐ 経営説明 ☐ 研修2について(期日の決定、研修内容とその持ち方) ☐ 幼保小の交流の持ち方について ☐ 入学後の児童の様子や5歳児の様子について情報交換 ☐ 協議「幼保小連携の充実に向けて現場が取り組むべきこと」 ☐ 今後の活動についての要望、共通認識等		
研 修 2	二日目 7/29 (水)	9:30 ～ 16:00	平成21年度就学前・小学校北地区合同研修会(能代) ☐ 開会式 ☐ 講話1 「小学校教育へつながる就学前教育」 ☐ 講話2 「就学前教育を踏まえた小学校教育の展開」 ☐ 実践発表・情報交換 「幼保小の交流活動の実際」 ☐ グループ協議・演習 「幼保小の連携に向けたプログラム作り」		
	三日目 10/30 (金)	8:00 ～ 17:00	☐ 職員打ち合わせ参加 ☐ 参観・授業(1時間目～5時間目) ・給食指導 ・清掃指導 ・帰りの会 ☐ 放課後 授業打ち合わせ 指導案の検討 【11/2までに実践の指導案を提出、その日のうちに打ち合わせ、指導を受ける。】		
	四日目 11/6 (金)	8:00 ～ 17:00	☐ 職員打ち合わせ参加 ☐ 参観・授業(1時間目～5時間目) 【・授業実践 3時間目(図画工作T1)】 ・給食指導 ・清掃指導 ・帰りの会 ☐ 放課後 まとめ・反省		

①「幼稚園・保育園・認定こども園・小学校間の交流活動の場の工夫、充実」

【交流活動年間計画】

月	名 称	内 容	備 考
6	6年生との交流学習	総合的な学習(幼稚園・保育園にて交流)	☆印は児童・園児の交流活動
7	幼保小連携推進委員会	教職員間の情報交換	
8	教職員の合同研修	- 幼稚園・保育園にて小学校の先生が保育実習体験 - 新教育要領について相互理解	
9	小学校運動会への園児の参加	・年長児が駆けっこに参加 小学校の開放	☆
10	授業参観 4年生との交流活動	- 幼稚園教諭が小学校のフリー参観へ参加 - 音楽の授業を体験 ・給食参観	☆
11	保護者間情報交換会	・小学校の保護者と子育てについて語る会	
12	2年生との交流活動 小学校の行事に参加	- 昔の遊びをしよう(竹とんぼ・お手玉・こまわし・竹馬等) - 小学校の生活発表会に参加(園の発表会で披露したもの)	☆ ☆
2	新入学児保護者説明会 5年生との交流	- 入学に関する説明会 5年生児と新入学児とのふれ合い会	☆
3	入学前連絡会議	・年長児の引き継ぎ	
・毎月「学校だより」と「園だより」の交換を行う。			

- ・ 小学校で楽しく遊んだ体験が、小学校という新しい環境への不安感や緊張感を和らげると思われる。また、新しい世界への期待感が高まる。

→小学校での活動が、園児の生活や遊びに関連があると興味関心度が高く意義のある交流になる。

→教師間の事前の打ち合わせが重要である。

- ・ 初めて小学校に足を踏み入れる子どもたちの表情には緊張感が漂っている。しかし交流の回数を重ねる度に、小学校が身近に感じられるようになったのか、子どもたち様子に落ち着きと安心感が見られてくる。

→不安より期待感が大きくなっている。年長の後半になると、子どもたちは家族や教師の思いをくみ取ってくる。

→何も出来ない一年生ではなく、何でも出来る年長児の次の学年、と意識の変革が見られる。

- ・ 交流は子どもたちだけのことでなく、教師間も交わす言葉の回数が増え、連携が取りやすい関係になった。
- ・ 年齢が低い程、教師(保育士)は母親的存在感が強く、園児と教師(保育士)は精神的なつながりが強いと感じる。教師として頼られる存在の有難さを実感できた。
- ・ 小学校との交流活動を通して、園を巣立って行った子どもたちのその後の成長を見守り続けることが出来、将来を見据えた指導計画を立てることに役立つ。
- ・ 小学生は張り切って、年下の子のお世話をしてくれた。園児を気遣って優しく接している姿が印象的だった。
- ・ 幼保小にとって互いに無理をした計画であると長続きしない。やり過ぎると相互に時間的な無理が生じ、マイナス面が生じかねない。